

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

<b>学校名</b>	有田町立有田小学校
------------	-----------

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。</li> <li>児童や保護者、職員の学校評価アンケートは、全体的にて肯定的な評価であった。特に、保護者評価が前年度及び前期よりも向上した。</li> <li>CRTの結果より、基礎基本の定着の必要性が見い出されたので、次年度での取組の共通理解を全職員で行った。</li> </ul>
----------------------	---

<b>2 学校教育目標</b>	ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成
-----------------	----------------------------

<b>3 本年度の重点目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 校内研究における「自分の考えを広げ深める児童の育成」をベースに、個別最適化の指導スキルの向上を目指す。</li> <li>② 特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で共有し、共通実践を組織的・継続的に行う。</li> <li>③ 「つなぐ」をキーワードに、担任同士や地域や関係機関と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し誇りに思う心情を育て、活躍したり披露したりする場を設ける。</li> </ul>
-------------------	---

**4 重点取組内容・成果指標** 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○下学年は学習への興味関心を高め、上学年は自己調整力を高めるために、児童が課題を見つけ、自分なりの考えをもち、友達と学び合いながら問題解決にあり、振り返りをして次に生かすという学習の過程を大切に活動	○「考えを交流し、学んだことなどを振り返りの時間に表現することができた。」と肯定的に回答する児童が90%以上 ○年度末に実施予定のCRTの算数科「思考力・判断力」において、各学年昨年度全国比以上	・単元ごとの振り返りカードやICT等を使って、児童が学んだことを表現し、振り返ることができるように指導する。 ・全職員が所属グループ学年で研究授業及び事後研究会を行い、教師の授業力向上を図る。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上	・ふれあい道徳などの公開授業やふれあい活動(縦割り班活動・年7回)の中で、思いやりや感謝の気持ちを育てる。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●人権・同和教育、道徳教育を充実し、「いじめ防止に努めた」と考える教職員を90%以上	・Q-Uテストの結果をもとに児童理解に努め、人間関係を育てる学級活動を行う。 ・年に2回の個人面談(教育相談)と、一人一人と担任等との対話を積極的に行う。		・		・		・	
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・Q-Uテストの結果をもとに児童理解に努め、小さなことでも褒めたり認めたりする。 ・キャリアパスポートや総合的な学習の時間で職業を調べるなど、将来の夢や目標について考える時間をとる。		・		・		・	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「健康や安全に気をつけて生活している」と回答する児童の割合を90%以上  ○自ら進んで挨拶をする児童が90%以上	・校内での安全な過ごし方(廊下歩行、遊具の使い方等)について継続的に指導する。 ・集団や個別など状況に応じて、命の大切さや、けが予防、感染症対策などの保健指導を行う。 ・集会等で全校児童に呼びかける。 ・挨拶に関する月間目標を設定し、児童に意識づけを行う。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・1学期に交通教室、学期始めに集団登校、毎月1回集団下校を行う。 ・登校班の確認、通学路の点検を防犯ふれあい隊と連携し、見守り活動を推進する。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○全職員による共通理解と共通実践による組織的対応	○教職員及び児童への理解を深める研修会及び話す場を年1回は設定する	・特別支援教育に関わる研修を年5回以上行い、専門的知識を深める。 ・毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。		・		・		・	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	◎地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上。	・世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の歴史・文化等、地域の人的・物的教育資源を活用した学習を年間を通して計画的に行う。		・		・		・	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
-----------------------	---